

【認定技術研修会シラバス】 2026.4.1 更新

研修科目	福祉用具を活用した住宅環境調整について	履修時間	60分
到達目標	福祉用具の利用方法や住宅環境調整の基礎知識を習得し、自立を目的とした支援ができるようになる。		
概要	福祉用具の活用方法等（福祉用具・制度）と、住宅改修を踏まえた住宅環境調整の実例を紹介する。		
内容	訪問リハビリテーションで活用される福祉用具の紹介 福祉用具、住宅改修に必要な制度の理解 福祉用具利用のポイント 住宅改修のポイント 事例紹介 など		
研修科目	訪問リハビリテーションにおけるリスクマネジメント	履修時間	90分
到達目標	訪問リハビリテーション業務で起こりうるリスクを予知し、リスク回避の技術と手法を学びリスク感性を高める。		
概要	グループワークを通じて事前にリスクを予測し、その回避や低減の方法を検討するとともに対策を考える。さらに、安心して働ける職場環境を整備し、利用者の安全を確保するために、平常時から準備と実行ができるようにする。		
内容	演習「危険予知トレーニング（6事例）」 3事例グループワーク（ハラスメント（虐待）・BCP（災害、感染）・転倒）		
研修科目	摂食・嚥下障害への対応	履修時間	90分
到達目標	摂食嚥下障害の評価とアプローチの概要がわかる。障害が疑われる場合に簡便なスクリーニングテストが試行できる。リスク管理の概要がわかる。		
概要	摂食・嚥下障害の基礎知識を再確認し評価・アプローチ方法について解説する。簡便に行える「スクリーニングテスト」などの方法を確認し、理解を深めていく。		
内容	摂食嚥下障害総論 訪問現場で実施可能なスクリーニング検査等 摂食嚥下リハビリテーションの実施（間接的、直接的アプローチ）		
研修科目	精神障害・認知症への対応	履修時間	90分
到達目標	精神障害と認知症の症状がみられる訪問リハビリテーション利用者に対し、制度背景を理解した中で、適切なサービスにつなげることや、継続した在宅生活を送るための方法を理解することが出来る。		
概要	認知症者については、インフォーマルな地域での取り組みの実践や認知症初期集中支援チームの活動、ICTを活用したピアサポートなど、多面的な視点を含め概説する。精神障害については、概論的な部分と地域での精神障害をもった方の生活像、リハビリテーション専門職としての役割や関連するサービスにどのようなものがあるのかなどの知識は必要である。また、関わり方では、対応の進め方なども含め概説する。		
内容	講義：精神障害概論、認知症概論、行動心理症状（BPSD）、認知行動療法、回想法 認知症短期集中リハビリテーション実施加算 等		

研修科目	フィジカル・アセスメント	履修時間	120分
到達目標	訪問リハビリテーション実施時に直面する利用者の徴候、普段の状態との違いについて察知し、症状と徴候から緊急度の判断ができる能力を高める。		
概要	フィジカル・アセスメントの必要性を理解し、基本的な手法を通して学ぶ。実技は二人一組のボディを基本として、被験者・験者の双方を体験する。		
内容	<p>概論・問診：利用者の顔色の変化や訴え、バイタルサインの変化について</p> <p>視診：チアノーゼ、浮腫、黄疸、斑点などを画像にて診る</p> <p>触診：脈、浮腫、腹痛、腹部膨満、便秘について</p> <p>打診：胸部、腹部の大きさ、臓器の圧痛について</p> <p>聴診：呼吸困難、喘鳴、胸痛について</p>		

研修科目	呼吸器障害への対応	履修時間	180分
到達目標	呼吸器障害の病態および基礎的な呼吸器系の構造を理解し、安全で効果的な呼吸リハビリテーションおよび運動負荷に対する知識を習得する。		
概要	呼吸器障害の訪問リハビリテーションの必要性を理解し、聴診等の基本的な評価手技および呼吸介助・呼吸筋リラクゼーション手技の基本を学ぶ。また、COPDや神経筋疾患などの事例紹介を通して、呼吸状態にあわせた運動処方とリスク管理方法を理解する。		
内容	<p>呼吸器障害の訪問リハビリテーション（総論）</p> <p>在宅酸素療法と人工呼吸器の基礎知識</p> <p>呼吸器リハビリテーションに必要な臨床評価(COPD、神経筋疾患など)</p> <p>運動処方の評価と注意点</p> <p>聴診法・打診法・触診法の演習</p> <p>呼吸（喀痰）介助、胸郭・呼吸筋リラクゼーション手技 など</p>		

研修科目	がんに対する訪問リハビリテーション	履修時間	90分
到達目標	がんの基礎知識を学び、在宅におけるリハビリテーションの目的と役割を理解する。予防から終末期・看取りまでの介入や、多職種連携による多面的な支援についても学ぶ。		
概要	がんの進行や治療を踏まえ、在宅がん患者へのリハビリテーションの意義と可能性を学ぶ。終末期・看取り期におけるQOL向上や合併症予防、多職種連携を通じた支援の実践について理解を深める。		
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん症状（身体症状、精神症状）</li> <li>・在宅がん</li> <li>・終末期リハビリテーション（チームアプローチ）</li> <li>・緩和ケア</li> <li>・事例紹介</li> </ul> <p>（QOL、QOD、ACP、デスカンファ、グリーフケアなど）</p>		

研修科目	循環器疾患に対する訪問リハビリテーション	履修時間	90分
到達目標	循環器疾患の理解を深め、安全なリハビリテーションのための知識とフィジカルアセス		
概要	循環器疾患の特性を理解し、心不全・虚血性心疾患・不整脈を中心に、安全で効果的な支援のためのフィジカルアセスメントと適切なアプローチを学ぶ。病期に応じたリハビリテーションの目標設定と多職種連携の実際について解説する。		
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・循環器疾患の基礎理解</li> <li>・フィジカルアセスメントと観察ポイント</li> <li>・安全なリハビリテーションアプローチ</li> <li>・段階別のリハビリテーション支援と目標設定</li> <li>・多職種連携の実際と役割分担</li> </ul>		